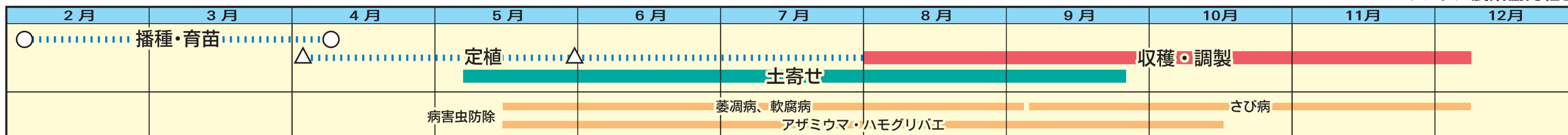


アルプス 白ネギ 栽培こよみ

アルプス農業協同組合



1. 播 種

■10aあたり必要資材（畦幅1.2mの場合）

チェーンポットCP303、育苗箱、底敷紙	62枚ずつ
培養土	30kg詰め13袋
コート種子	2.5粒 約40,920粒 3粒 約49,104粒

(1) 播種作業

- 均一に培養土を詰める（縁のポットは、培養土が少なくなりやすいので注意）。
- 1ポットあたり3粒（もしくは2.5粒）ずつ播種する。
- 均一に覆土する（チェーンポットと育苗箱のすき間にもしっかり土を詰める）。
- たっぷり均一にかん水する（育苗箱1枚あたり1.5Lが目安）。

(2) 出芽管理

- 育苗器を利用する場合
 - 20~25°Cで4~5日、育苗器に入れる。
 - 育苗箱を直接重ねた場合、芽傷みを防ぐため、出芽直前にハウスに搬出する。
 - 育苗箱1枚ごとに空箱をかぶせるなどすると、芽傷みを防ぐことができる。

※3月の育苗器使用は温度管理に注意。
- 育苗器を利用しない場合
 - ハウス内で、べたかけ資材で被覆する。
 - 2月播種の場合はなるべくトンネル栽培にする。
 - 出芽が見られたらべたかけ資材を除去する。

2. 育 苗

(1) かん水

- かん水は午前中に行い、夜間は過湿にならないようにする。
- 晴天時は、1日1回行い、曇天時・雨天時は乾いていれば行う。

(2) 温度管理

- 昼間20~25°C、夜間10°Cを目安に管理する（30°C以上にならないように注意する）。

(3) 初期生育を良くするため葉切りは控える

3. ほ場準備

- 排水のよいほ場を選ぶ。
- 病害虫の発生が増えることなどから、できるだけ連作は避ける。

① 定植前（できれば前年）に、額縁排水溝を設置する。

② できるだけ深く、細かく耕起・碎土する。

■基肥の目安(kg/10a)

	基肥+発肥料の場合 植溝施用	基肥+追肥 体系の場合
発酵ケイフン(粒)	150	150
苦土石灰(粒)	200	200
粒状ようりん	60	60
なっちゃんエース又はあきちゃんエース	60	—

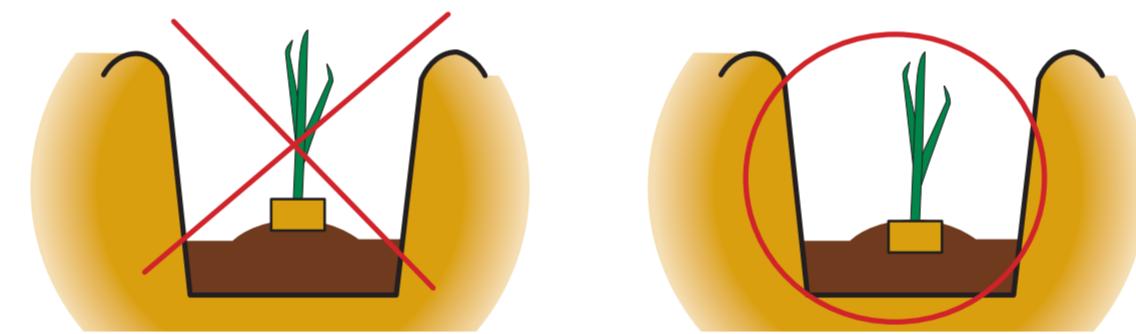
4. 定 植

(1) 定植苗の目安

- 育苗期間 2月まき：50~60日 3月まき：40~50日
- 草丈15~20cm、葉数2枚程度で定植する。

(2) 定植作業

- 萎凋病対策としてトリフミン水和剤（200倍）を育苗箱1枚あたり1kgかん注する。
- 定植当日に1.1~1.2mの畦幅で、植溝（深さ10~15cm）を掘る。
※植溝はしっかり額縁排水溝につなぐ。
- なっちゃんエース（又は、あきちゃんエース）を植溝施用する場合、植溝になっちゃんエース（又は、あきちゃんエース）を100mあたり8kg散布する。
- ひっぱりくんを使って定植する。
- 覆土が不十分で、チェーンポットが土から見えている場合は必ず手直しをする。なっちゃんエース（又は、あきちゃんエース）が土からみえている場合も覆土する。



- 活着が悪い場合はやさしい燐加安S540を株元に100mあたり1~2kg施用する。
- ハモグリバエなどの予防として殺虫粒剤を株元に散布する。
- 雑草対策としてゴーゴーサン乳剤（又はゴーゴーサン細粒剤F）を散布する。

病 害 虫 防 除

- 薬液がつきにくいので、展着剤を加える（ハイテンパワーなど）
- 水和剤や乳剤は、葉の全体に薬剤がかかるようしっかり散布する。
- 出荷物に病虫害が残らないよう、最終土寄せ以降の防除を徹底する。
- 農薬の使用量（倍率）、使用時期、使用回数を確認し、しっかり守る。

(1) べと病・軟腐病

- 土壤で感染する病害であり、多雨や高温期の土寄せ・追肥で被害が拡大する。
- 6月下旬、7月下旬の土寄せ時にオリゼメント粒剤を株元散布し、土寄せする。

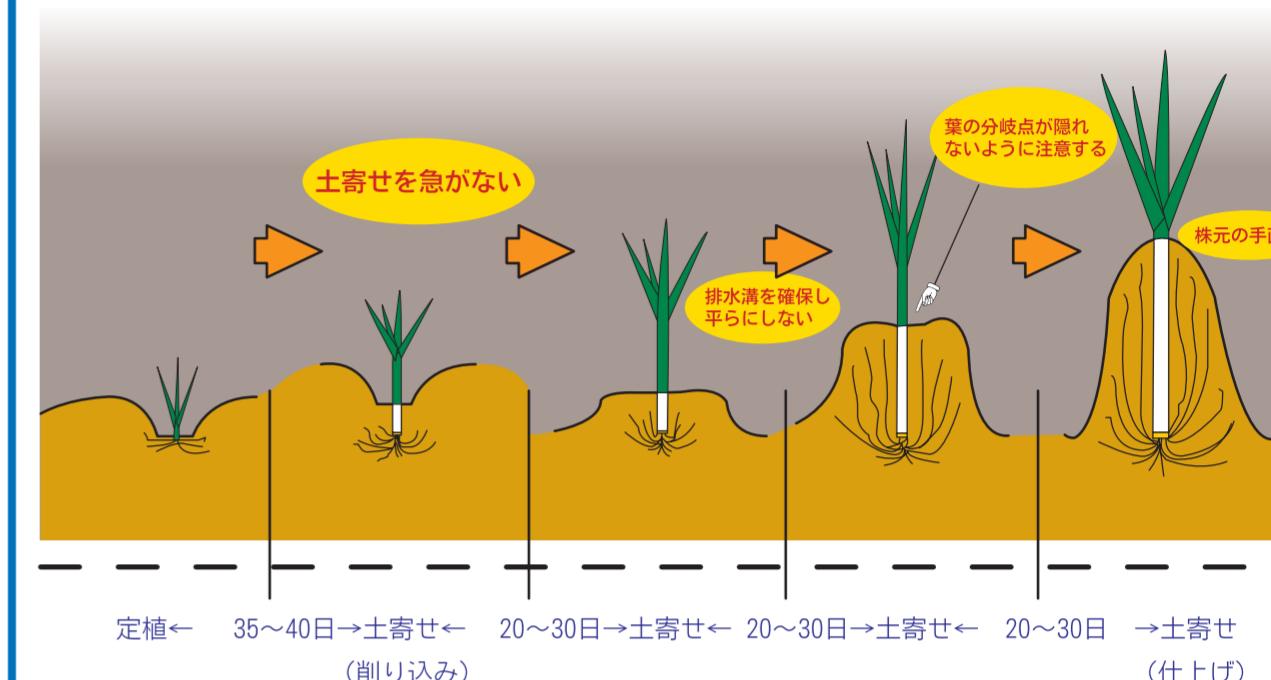
(2) さび病

- 9月以降に発生が増えるため、ダコニール1000などにより予防する。
- 発生が見られたら、オンリーワンフルアブル、アミスター20フルアブルなどで防除する。

(3) ハモグリバエ・アザミウマ

- 梅雨明け以降に発生が増え、収穫期に入っても被害が目立つ。
- ベネビアOD、ディアナSCなどで防除する。
- 土寄せ時にスタークリ粒剤やダントツ粒剤などを株元散布してもよい。

5. 土寄せ、追肥



(1) 削り込み、土寄せ

- 最初の削り込みは定植後35~40日で行い、その後の土寄せは、生育にあわせて20~30日間隔で3~5回行う。
- 土寄せは生育の早い株にあわせて行わない（遅い株は、ますます細くなる）。
- 途中の土寄せは、株元まで土を寄せず、葉の分岐点が隠れないように注意し、土の上に葉が4枚以上出るようにする。

(2) 追肥

- 基肥でそさいS 1号を用いた場合、削り込みや土寄せ時にやさしい燐加安S540を20kg/10a追肥する。
- 夏季の無理な土寄せ、多量の追肥は、軟腐病などの発生の原因となるので控える。

(3) 最終土寄せ

収穫時期	軟白必要日数	収穫期間の目安
8月~9月どり	15~20日	10日
10月どり	20~30日	15日
11月どり	30~40日	20日

- 仕上げの最終土寄せは、上の表を参考に、出荷量に応じて計画的に行う。
- 根元から33cm（8月~9月に出荷するものは30cm）の土寄せ量をしっかり確保する。
- 必ず手直しを行い、ネギとネギの隙間に十分土を寄せ、土の沈降によるボケの発生を防ぐ。

6. 収 穫・調 製

- 試し堀りをして、軟白長が30cm以上（8~9月に出荷するものは27cm）を確保したことを確認してから収穫する。
- 下の図のように根葉切り・皮むきし、富山県標準出荷規格にしたがい、選別・結束して出荷する。

